

「新農業士」を紹介します

女性農業士

齊藤 美和子さん



平成8年に就農し、山形県での6ヵ月研修に参加したり、スイスに渡って自家製加工品の研修にも参加しています。

現在は、野菜と水稻の複合経営を基本に家族で部門を分担して栽培管理しており、地元スーパーの産直会に所属して少量多品種で野菜を販売しています。

産直会や鹿角地区農家生活研究グループ連絡協議会の牽引役としての活躍が期待されています。

女性農業士

柴田 恵理子さん



平成24年に農業サポーターとして活動をスタートし、非農家出身でありながら平成29年度に就農してねぎを中心とした葉もの野菜づくりに取り組んでいます。野菜は主に地元スーパーの産直コーナーで販売しており、食の安全安心が売りとなっています。

現在は鹿角地区農家生活研究グループ連絡協議会の会長も務めており、今後の活躍が期待されています。

トピック

あきたこまち R について

これまで、県ではカドミウム汚染米の対策として、汚染米を「作らない・出さない・売らない」の3本柱で、安全・安心な秋田米の生産流通対策を講じてきました。特に「作らない」対策としての「出穂期前後各3週間の湛水管理」は、生産者の負担が大きい状況でした。

そのような背景から、「あきたこまち」と、国育成のカドミウム低吸収性イネ「コシヒカリ環1号」を交配し、カドミウム低吸収の特性を付与した「あきたこまちR」を育成しました。令和7年産から、県内の「あきたこまち」を「あきたこまちR」に切り替える方針としています。

詳細については、県のwebサイトを御参照ください。

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/73119>

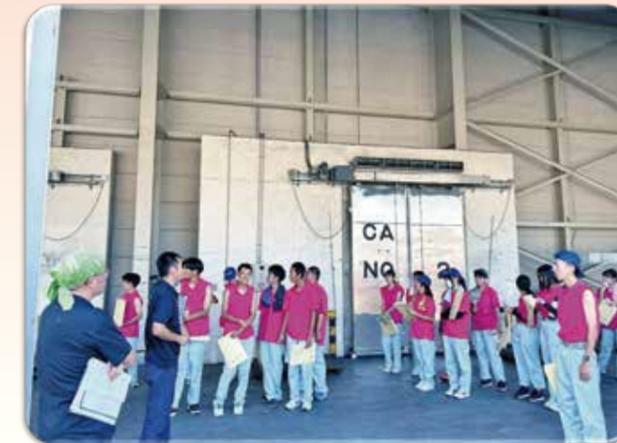


【QRコードはこちら】

お知らせ

令和6年度 未来農業のフロンティア育成研修生 2次募集のお知らせ

- 研修期間
令和6年4月～令和8年3月（2年間）
 - 応募資格
研修終了後に県内就農が確実で、就農予定時の年齢が原則50歳未満の方 等
 - 募集メ切
令和6年1月11日
- 【お問い合わせ】鹿角地域振興局農林部農業振興普及課 担い手・経営班 TEL:0186-23-3683



秋田北鷹高等学校の現地視察（農業教育高度化事業）を開催し、鹿角地域の特産品である「かづの北限の桃」の園地と「かづの牛」に関する施設等を訪問し、取組について学びました。

新年にあたって

鹿角地域振興局農林部農業振興普及課 課長 泉 誠



明けましておめでとうございます。
昨年は夏季に記録的高温が続いたため、作目によって収量や品質に大きな影響のあった年でした。
また、各種農業資材の高騰など厳しい外部環境にもさらされておりますが、RTK基地局設置によるスマート農機導入推進、加工用馬鈴薯栽培拡大など、将来に向けた明るい動きも出てきております。
職員一同、農家の皆様の所得向上に結びつくよう、単収や品質の向上、効率化や機械化の推進などに引き続き取り組んでいきますので、よろしくお祈りいたします。

令和6年度に向けた技術対策等のポイント

水 稲 茎数の早期確保に向けた栽培管理について

令和5年は、生育初期の低温による影響で初期分けつが確保できず、茎数が少なく推移した結果、穂数が少なく㎡当たり着粒数の減少につながりました。天候の影響の他、近年は、苗箱数削減のために栽植密度を低く抑えた管理が増えていることも、要因の一つと考えられます。影響が少ない年もありますが、令和5年のように茎数の増加が鈍い場合は、穂数が確保できない場合もあります。

また、高品質・良食味米の安定生産の面では、強勢茎（中苗で3～6号の1次分けつ）主体に確保することが重要となることから、収量の安定と併せて、気候変動に対応できる管理を行いましょう。

- ①栽植密度：強勢茎主体に穂数を確保するためには、21.2株/㎡（70株/坪）以上としましょう。
- ②植え付け本数：稚苗で4～5本/株、中苗で3～4本/株を目安とします。
- ③植え付け深さ：中苗の3号1次分けつを安定的に確保するには、深さは2.5cm程度とします。
- ④水管理：田植え直後は水深を4cm程度とし、保温効果を高めるためできるだけ湛水状態を保ちます。活着後（田植え4～5日後）は、分けつ発生促進のため、浅水管理とし、水温と地温を高めて日気温較差を大きくします。このため、できるだけかん水は水温の低い早朝に短時間で行います。

花 き 露地花きにおける異常天候（干ばつ・大雨）への対応



葉焼け症状

令和5年7月後半からの高温・少雨・多照気象によって、シンテップウユリは葉焼けや葉先黄化による品質低下が多く見られました。干ばつや、反対に長雨・大雨による湿害といった気象災害による影響を軽減するためにも、土（ほ場）づくりに努めましょう。

- 堆肥（有機物）の施用
堆肥の施用により「水はけ」「水もち」といった土壌の物理性を改善する（原料畜種によって施用量に注意（肥料成分を勘案））。
- 深耕によって作土層を広げ、作物の根が深く張れるようにし（耐干性の向上）、大雨時のほ場の排水性も改善。
- 堆肥が確保できないなどの場合は、作付け前年や収穫後の緑肥作物の栽培・すき込みによる有機物補給、物理性改善についても検討しましょう。

畜 産 牛舎に簡易ミスト装置を設置してみませんか

近年、気候変動により夏季の厳しさが増えています。牛は暑さに弱い動物であり、生産環境限界温度（生産に影響を及ぼす温度）は肉用牛で30℃、乳牛で25℃といわれています。牛の生産性を上げるためにも、暑熱対策は非常に重要と考えられます。

そこで自作可能な簡易ミスト装置をご紹介します。このミストは40m分を16万円程度で作成可能であり、材料もホームセンターなどで入手可能です。具体的な作成方法等詳しいことは農業振興普及課へお問い合わせください。



簡易ミスト装置の材料例

果 樹 リンゴの長期販売に向けたスマートフレッシュ処理の紹介



スマートフレッシュ処理施設

令和5年度から鹿角地域内の若手果樹農家を中心に、鮮度保持技術（スマートフレッシュ処理）の取組を始めました。

1. スマートフレッシュ処理とは

スマートフレッシュ処理では、「スマートフレッシュくん蒸剤（有効成分：1-メチルシクロプロペン（1-MCP）」）を使用します。エチレンによる果実の成熟・老化を抑制し、収穫後のリンゴ等の青果物に対して高い鮮度保持効果を発揮します。

2. スマートフレッシュ処理における注意点

未熟果や過熟果は処理効果が劣ることから、適熟からやや早めの果実を用います。処理は専門の業者に依頼して行います。処理するには気密性の高い処理施設が必要で処理前に施設の気密性をチェックする必要があります（写真）。

野 菜 えだまめにおける害虫対策について

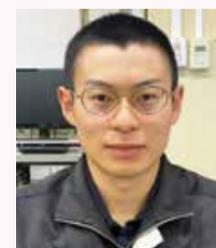
令和5年は高温・干ばつの影響を受け、莢の肥大不足により収量が落ち込み、害虫の発生も多く、全体で前年の7割の収量となりました。

また、中晩生以降ではダイズサヤタマバエの被害が目立ちました。ダイズサヤタマバエの幼虫が寄生した莢は奇形や不稔となります。成虫は花や若莢に産卵するので、開花日※7日～10日後に薬剤散布することが防除のポイントです。生育状況をよく確認し、適期を逃がさないように防除しましょう。

※開花日：ほ場全体で50%程度の開花が確認された日

私たちが新規採用普及指導員です！

農業振興普及課
担い手・経営班
佐藤 宗一郎



作物担当として、管内の稲作や大豆などの調査を中心に活動してきました。

昨今は異常気象が激甚化しており、雑草対策や病害虫への対応も難しくなっていますが、そのような中でも柔軟に対応できる普及指導員を目指していきます。

農業振興普及課
果樹産地支援班
関 賢太郎



今年度採用され、初めてリンゴやモモなどの果樹栽培を経験し、高度な技術や知識が必要なことが身に染みてよくわかりました。

今後の産地維持・拡大に向けて、作業の省力化やサポーターの育成に力を入れて取り組みます。